

未来まちづくり塾

第1回「まちづくりのフレームワーク」開催報告

開催日時：

2013年11月8日（金）18:30～21:00

開催場所：

淀川区役所5階会議室

参加者数：

11地活協19名

登壇者：

シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔 氏

全体の流れ：

- 18:30 [第1部] 未来まちづくり塾 事前ガイダンス
- ・全体趣旨説明
 - ・アイスブレイク
- グループ分け、参加者自己紹介
- 19:00 [第2部] まちづくりのフレームワーク
- ～これからの地域参加を考える～
- 講師：シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔 氏
- ・セッション1 まちづくりの現在と未来を考える
これまでのまちづくり、これからのまちづくり
 - ・セッション2 淀川区の未来まちづくりを考える
協働の促進要因・阻害要因
- 21:00 閉会

内容：

淀川区内の各地域活動協議会の実務者を対象とした連続講座「未来まちづくり塾」の第1回目として「まちづくりのフレームワーク」を開催した。

第1部では浜辺アドバイザーによる全体趣旨説明の後、アイスブレイクを実施。スタッフが色のついたシールを参加者の背中に張り付け、会話をしないルールで同じ色の人を探し、グループを形成した。

その後、参加者はA4用紙を四つ折りにして「名前・団体名」「団体での役割」「地域の活動、自分の仕事の各パーセンテージ（仕事量の状態）」「10年後こんな地域になってほしい」を記入し、各グループ内で自己紹介を行った。

第2部ではシチズンシップ共育企画代表の川中大輔氏が登壇。映像を用いながら、行政の指示を受けて行う「上からの地域参加」ではなく、わたし発による「下からの地域参加」の視点を持つことの大切さが参加者に伝えられた。

第1セッション「まちづくりの現在と未来を考える」では、四つ折りしたA4用紙に下記内容を記入し、グループ内で意見を交換。

「これまでのまちづくり できている、実現している、カタチになっている」
「これまでのまちづくり うまくいっていない、このあたり不十分」
「5年後、こんな困ったが増えてくる、出てくる」
「これからのまちづくり 力を注ぐべき、こういうことを大切にすべき
10年後こうなればいいな」

参加者は「地域活動はボランティアなので、やる人はやるが、やらない人はやらない。このため、忙しい人にさらに仕事を頼む構造になってしまっている」「現在は若い女性も含めて働いているので、特に若い人のボランティアが少ない」「町会加入率が下がり続けている」など、現状課題を中心に話し合い、多くの地域で共通した課題があることについて認識を深めた。

続いて「これからのまちづくり」で力を注ぐこと、大切にしていこうことについて、各グループで話し合い、A3用紙に3~4箇条で意見をとりまとめ、全体で内容を共有。

川中氏は「次世代の育ち」「いのちの支え」「お金の活用」の3点をまちづくりのポイントとして紹介し、「予測して備えて対応」すること、「地域間の連携・協働を広域展開」していくことが地域課題の解決には必要であり、一気に人を巻き込もうとするのではなく「プロジェクト方式の巻き込み」で多様な参加の回路をつくっていくことが重要であると解説された。

第2セッションのワークでは、協働を進めていくにあたって促進する要素を「+」、阻害する要素を「-」として、各参加者がポストイットにその内容を記入。出た要素をグループで話し合いながら分類し、地域での協働において何が促進・阻害要因になるか検討した。

最後に川中氏は、協働のポイントは「責めない」「粘り強さ」「楽観主義」にあるとし、地域内にある多様性をエネルギーに変えていってもらえればと講座を締めくくった。

2013年11月22日
淀川区まちづくりセンター支部

